

Ⅱ 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

緩やかな回復の動きにやや足踏み感がみられる。
先行きについては、緩やかな回復の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、前期比で0.3ポイント減少し、3期連続で悪化した。業種別では、製造業は2期連続で悪化し、非製造業は3期ぶりに改善した。先行きについては、「良い方向に向かう」「どちらともいえない」が前回調査から増加し、「悪い方向に向かう」が減少した。
- 売上げD Iは2期連続で改善した。
- 資金繰りD I・採算D Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は3期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは、改善する見込みである。また、設備投資実施率については減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成30年4～6月期、「当期」：平成30年7～9月期、「来期」：平成30年10～12月期

1 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感D Iは▲30.6となり、3期連続で悪化した。前期比で0.3ポイント減少したが、前年同期比では5.4ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲27.0)は2期連続で悪化し、非製造業(▲33.5)は3期ぶりに改善した。

〈景況感D Iの推移〉

	当 期 (H30. 7-9)	前 期 (H30. 4-6)	前年同期 (H29. 7-9)	来期見通し (H30. 10-12)
全 体	▲30.6	▲30.3	▲36.0	▲8.1
製 造 業	▲27.0	▲25.5	▲33.1	▲4.9
非製造業	▲33.5	▲34.1	▲38.4	▲10.7

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は10.9%（前回調査(H30. 4-6月)比+1.2ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は19.0%（前回調査比▲2.7ポイント）だった。

先行きD Iは▲8.1（前回調査比+3.9ポイント）と、2期ぶりに改善した。

〈今後の見通し〉

「良い方向に向かう」と回答した割合

	今回調査 (H30. 10-12見通し)	前回調査 (H30. 7-9見通し)
全 体	10.9%	9.7%
製 造 業	12.3%	11.3%
非製造業	9.8%	8.5%

「悪い方向に向かう」と回答した割合

	今回調査 (H30. 10-12見通し)	前回調査 (H30. 7-9見通し)
全 体	19.0%	21.7%
製 造 業	17.2%	20.3%
非製造業	20.5%	22.8%

2 売上げについて

売上げD Iは▲14.5（前期比+1.8）となり、2期連続で改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当期 (H30. 7-9)	前期 (H30. 4-6)	前年同期 (H29. 7-9)	来期見通し (H30. 10-12)
全 体	▲14.5	▲16.3	▲17.4	1.9
製 造 業	▲9.8	▲10.5	▲10.7	6.5
非製造業	▲18.3	▲20.8	▲22.8	▲1.9

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲15.8（前期比▲2.0）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当期 (H30. 7-9)	前期 (H30. 4-6)	前年同期 (H29. 7-9)	来期見通し (H30. 10-12)
全 体	▲15.8	▲13.8	▲16.1	▲7.7
製 造 業	▲14.8	▲11.5	▲15.4	▲6.3
非製造業	▲16.6	▲15.7	▲16.7	▲8.9

4 採算について

採算D Iは▲23.6（前期比▲1.7）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当期 (H30. 7-9)	前期 (H30. 4-6)	前年同期 (H29. 7-9)	来期見通し (H30. 10-12)
全 体	▲23.6	▲21.9	▲20.8	▲11.0
製 造 業	▲20.9	▲17.1	▲18.2	▲8.4
非製造業	▲25.9	▲25.7	▲22.9	▲13.2

5 設備投資について

実施率は23.5%となり、3期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続で増加し、非製造業は3期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (H30. 7-9)	前 期 (H30. 4-6)	前年同期 (H29. 7-9)	来期見通し (H30. 10-12)
全 体	23.5%	21.1%	22.5%	19.2%
製 造 業	28.6%	25.9%	28.1%	24.8%
非製造業	19.5%	17.3%	17.8%	14.7%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP23以降をご覧ください）

【現在の景況感】

- （輸送用機械器具）・業界の中小企業が減っている印象があり、廃業した同業者の仕事が回ってくる（プラスチック製品）・どの企業も多忙な様子ではあるが、良い企業と悪い企業の二分化が進んでいる
- （銑鉄鋳物）・「高水準」で維持している
- （印刷業）・依然としてペーパーレス化の煽りを受けている
- （百貨店）・都心店は好況であるが、郊外店は苦戦している
- （商店街）・少し前に底打ちから良くなっていると思ったが、そうでもない

【売上・採算】

- （一般機械器具）・主要部門でのOEM先からの受注量は依然として多い
- （電気機械器具）・増えた。10月から量産化する仕事があり、今後も増える見込み
- （金属製品）・依然としてフル生産の体制が続いている
- （食料品製造）・新規取引先の増加に加え、猛暑の影響で冷やし中華の材料の出荷量が増えている
- （スーパー）・飲料、アイス、麺類、めんつゆ、ドレッシングがよく売れた
- （情報サービス業）・景気が良くなってきたため、ソフトウェアに投資する会社が増えた
- （建設業）・経費削減効果がでて収益性は向上した

【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・自動車関連は順調に推移する見込みである
- （電気機械器具）・海外製品が増えている。見通しはどちらともいえない
- （金属製品）・当面、現状維持の見込みであり、良い方向に向かうとみている
- （銑鉄鋳物）・取引先の景況からみて、少なくとも悪い方向に向かうことはないと考えている
- （印刷業）・雑貨等新製品関係の仕事も入ってくるので、良い方向に向かうと思いたい
- （スーパー）・今まで埼玉になかったスーパーが出店してきている。どちらともいえない
- （サービス業）・旅行申込は増える見込みであり、良い方向に向かうとみている